

美術科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校

教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成26年11月〇日 (〇)
- 2 学年・組 第1学年〇組
- 3 場 所 美術室
- 4 題 材 名 「ドロドロ・ドローイング」
- 5 題材について

○ 題材観

本題材は、紙粘土を水でふやかし、指などで直接触りながら画用紙上にマチエール（画面の凹凸のことで、動きや質感を出す効果がある）を作るなどして、絵画的な表現を試みるものである。紙粘土は身近な素材であり、水に溶け易く乾燥すると軽くなり、比較的取り扱いやすい。出来た画面から偶然に出来た形の美しさやおもしろさを発見し、枠を使用したトリミング（一部分を作品として選択する）することによって、構成力を身につけるのに役立つと考える。最終的には、作品化したものからイメージし、題名を発想する。この制作工程には、自分で道具や材料を選択してつくる楽しさがあると共に、表現意欲を高める目的がある。本題材は、紙粘土の別の使い方を体験し、多種多様にある表現方法の可能性を発展させていくのに適した題材であると考えられる。

○ 生徒観

1年生を対象とした事前のアンケート調査によると、89%の生徒が、これまでに紙粘土で制作をしたことがあると回答している。しかし、どろんこ遊びや砂遊びといった触覚的な造形活動において、手で砂や粘土を直接触るといった手が汚れる等の作業を好まない生徒が52%いることが明らかとなった。

本学級の生徒は、4月からの美術の授業において、色の学習やレタリングなど、主にデザインの学習をおこなってきた。デカルコマニーやフロッタージュといったモダンテクニックの学習はまだ未習である。鑑賞においては、これまでにゴッホについて学習したが、その他の多くの作品との出会いはまだない。直近の題材である「〇中コーポレーション～押しペットボトルのラベルデザインをしよう！～」では、既習事項を活用し、色水でドリンクを作り、ラベルのデザインをした。下描きの段階で一旦は描いたが、もう一度やり直したいと申し出る生徒が数名いたり、字体や配色などの細かなところで質問をよくしたりするなど、制作に対して意欲的な生徒がいる。

○ 指導観

指導にあたっては、導入部において、シュールレアリスムの作品をいくつか鑑賞し、表現の自由さや、偶然に出来た形の美しさやおもしろさに着目させ、様々な作品を観る楽しさを味わいながら、これからの制作に対する意欲を高めたい。また、視覚資料を活用して、作品や制作工程、学習目標などのわかりやすさを図るとともに、制作時間を確保するようにする。紙粘土を水に溶かす工程においては、直接手で触ることに抵抗感をもつ生徒に対して、こてを使うようにし、徐々に手で触ることができるよう段階的な指導をおこなう。そして、手や指先で紙粘土に直接触れることによって、質感に対する意識や、マチエールの微妙な凹凸へのこだわりをもたせたい。絵の具や砂などの材料の混ぜ方を考えるようにすることによって、自分なりのマチエールづくりの一工夫となるようにする。トリミングによって構成力や、題名をつけることによって豊かな発想力がつくことを期待したい。1年生において、新たな表現技法を体験することによって、「表現する」ことの意味を広げるきっかけとしたい。

5 題材の目標

偶然に出来る形のおもしろさや美しさに関心をもち、道具や材料の特性を生かしながら表現方法を工夫し、創造的に表現するとともに、自他の作品のよさや美しさを味わい、美術作品の見方を広げる。

6 題材の評価規準

1. 美術への関心 意欲・態度	2. 発想や構想の能力	3. 創造的な能力	4. 鑑賞の能力
偶然に出来た形のおもしろさや美しさに関心をもち、美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に道具や材料を生かそうとしている。	感性や創造力を働かせて、形や色彩などの効果を生かして創造的な構成を工夫しようとしている。	感性や造形感覚などを働かせて、道具や材料を生かし、創意工夫して表現している。	感性や創造力を働かせて、よさや美しさを味わい、美術作品の見方を広げる。

7 学習活動に即した評価規準

1. 美術への関心 意欲・態度	2. 発想や構想の能力	3. 創造的な能力	4. 鑑賞の能力
① シュールレアリスムの作品や自他の作品の偶然に出来た形のおもしろさや美しさに関心をもち。	① 感性や創造力を働かせて、マチエールの凹凸や絵の具などの材料の使い方を工夫し、自分なりのマチエールづくりを試みようとしている。	① 感性や造形感覚などを働かせて、道具や材料の特性を生かし、マチエールづくりをしている。 ② 感性や造形感覚などを働かせて、偶然に出来た形のおもしろさや美しさを生かしたトリミングをしている。	① シュールレアリスムの作品や自他の作品の偶然に出来た形のおもしろさや美しさを感じ取っている。 ② 指などで描いたり紙粘土を溶かすなど、これまでと違った表現活動をすることによって美術作品の見方を広げる。

8 指導と評価の計画

次	時	学習内容	評 価					
			評価規準	評価方法	関	発	創	鑑
1	1	・シュールレアリスムの作品を鑑賞し、偶然に出来る形のおもしろさや美しさを知る。 ・これからの制作工程を知る。	関① 鑑①	・授業観察 ・ワークシート	○			○
2	1 (本時)	・画用紙上にマチエールをつくる。	発① 創①	・授業観察		○	○	
	1	・トリミングし、ニスを塗り、	創②	・授業観察	○		○	

		作品化する。		・作品				
3	1	・作品に題名をつける。 ・鑑賞会 ・ふりかえり	関① 鑑① 鑑②	・作品，題名 ・コメント ・振り返り用紙	○			○

9 本時の展開

(1) 本時の目標

道具や材料の特性を生かし，創意工夫しながらマチエールづくりをする。

(2) 準備物

紙粘土（班にひとつ），四つ切り画用紙（一人一枚），こて，櫛，へら，砂など

(3) 学習の展開

学習活動		教師の支援	評価方法
導 入	○本時の学習目標を知る。 ・道具や材料の使い方を知る。	・目標や制作工程を視覚的に示すようにする。 ・道具や材料の様々な使い方があることを確認し，共有する。	
	自分流マチエールをつくろう。		
展 開	○マチエールづくりをする。 ・班の形で制作をする。 ・道具や材料を自分で選ぶ。	・粘土に直接触れることに抵抗感のある生徒がいることが予想されるため，こてや手袋を用意し，徐々に慣れさせるようにする。 ・机間指導において，材料や用具等を創意工夫して用いている生徒の姿とその作品を取り上げ積極的に評価することで，創意工夫することによって生まれたマチエールの良さや面白さについて気付けるようにする。	・授業観察
終 末	○作品を乾燥棚に入れる。 ○片付けをする。 ○次時の確認をする。	・時間によっては，机の上に置いたままにしておく。 ・道具は洗う。	